

とがち帯広FC

(十勝トレセンU-12)

第27回船越さくらカップ報告書

大会結果

☆予選リーグ☆

第1試合 とがち帯広FC 9-0 T, T, K SC (埼玉県)

第2試合 とがち帯広FC 5-0 駒越小サッカースポーツ少年団 (静岡県)

第3試合 とがち帯広FC 4-0 多治見FCエルフェルソA (岐阜県)

3勝0敗で1位トーナメントへ

☆1位トーナメント☆

1回戦 とがち帯広FC 1-0 プリメーラ御殿場フットボールクラブ (静岡県)

準決勝 とがち帯広FC 0-6 原FC (神奈川県)

3位決定戦 とがち帯広FC 2-2 スクデットフットボールクラブ (奈良県)
(PK4-3)

参加32チーム中 第3位

報告者 十勝トレセンU-12 スタッフ (代表 北田和敏)

はじめに

静岡遠征に行くにあたって、二つ目標があった。

一つはサッカーの先進地静岡に行き、静岡や全国のチームと交流することによって、大きな刺激を受けること。

もう一つはこれまでに積んだトレーニングの成果を試し、十勝トレセンとしての課題を確認することである。

遠征直前の3月末には、白樺高校の協力を得て、外でのトレーニングをすることができた。トレーニングの中では、狭い屋内でのサッカーではないので、優先順位を意識した大きな展開を意識すること、攻守において、味方・相手・ボール・状況を良く観て自分のポジション（立ち位置）を決めることを中心に指導した。選手の動きも良く、静岡での活躍を予感させるトレーニングとなった。

4月4日（土）

☆予選リーグ第1試合☆

とかち帯広FC 9-0 T, T, K SC（埼玉県） 会場：駒越小学校G

前日からの雨のため、グラウンドはぬかるんでいる状態であり、このような状態のグラウンドはほとんど経験がない子ども達なのでパスが通るのか不安になりながらのキックオフとなった。

試合は開始早々、心配を覆し、右サイドから鋭い攻撃を繰り返した。

5分には左サイド→中央→左サイド→中央と繋ぎ、8がシュート、先制点を奪う。

その後も優勢に進め、10分も左サイドの3のセンタリングを5が決め2点目。

12分には中央付近の混戦から9がドリブルで抜け出しシュート、3点目を決める。

19分にはディフェンスから繋いだボールを10がゴールに迫り、PKを獲得。確実に決め4点目。前半終了間際にもディフェンスから繋いだボールを10が中央から左へ抜けながらシュートし5点目を決めた。

ハーフタイムの指示は『判断が良くない場面があるので気をつける。』『DFが持ってしまうと怖い場面があるので、連携をしっかりとる。』といった内容だった。

後半も優勢に攻め続け、9分には14と2のパス交換から14が抜け出しセンタリング、相手DFに当たるがそのこぼれ球を4が角度のないところから蹴り込み6点目。

13分には左サイドをDFから崩していき、センタリングを4がトラップ、相手DFをかわしシュート、7点目を奪う。

その後も18分に10が相手ゴールキックをカットしドリブルでかわしシュートし、8点目。19分には11がやはり相手ゴールキックをカットし、ミドルシュートを打ち、9点目を入れ、タイムアップ。

グラウンドがぬかるんでいる状態での試合としてはよく攻めた。しかし、全体としては幅と厚みが足りないこと、狙いを持ってではなく何となくボールサイドに寄ってしまうこと、グラウンド状態が悪いので位置取りの工夫が必要なことなどの課題がみられた。

☆予選リーグ第2試合☆

とかち帯広FC 5-0 駒越小サッカースポーツ少年団（静岡県） 会場：駒越小学校G

立ち上がり細かくパスを繋ごうとしてカットされ、シュートされる。右サイドから崩されセンタリングされる。DFラインで繋ごうとしたパスをカットされシュートされるというように自分達の判断

ミスから相手の攻撃が続いたが、何とか得点を阻止し、攻撃に転じた。

4分、右サイドから崩し、ようやくこの試合の初シュート。その後は左右両サイドから崩す機会が増え、10分には右サイドのスローインから中央を経由し、左サイドに展開。そして再び中央の9へ。そこからスループアスで10へと繋ぎ、シュート、1点目を奪う。

その後もフィールド全員が関わりながら攻め続け、15分には2からのスループアスに10がGKと交錯しながらもゴールに向かい、2点目を奪う。

19分には左サイドからボランチ→DF→右サイドと繋ぎ、18のセンタリングから10がシュート、3点目を奪って前半を終える。

ハーフタイムの指示は『DFラインが浅いので、一つのパスで裏を取られてしまうから気をつけること。』、『攻撃ではスループアスが有効だったので後半も意識すること。』、『グラウンド状態や相手の位置取りなどから、何でもパスやドリブルで勝負するのではなく、時にはスピードで勝負することも有効であること。』などであった。

後半も両サイドを使って優位に試合を進め、再三シュートを放ったが、相手GKのセーブや、シュート精度の低さのため、なかなかゴールを割ることができなかった。

17分、相手GKの蹴ったボールを17がカットし、19へと繋ぎシュート、4点目を奪う。

そして、終了間際の19分には、スローインから中央、右サイドと繋いで再び中央へ折り返し、最後は10がドリブルで抜け、シュート。5点目を入れ、試合終了となる。

失点を0に押さえたが、ディフェンスでは一人で対応するのではなく、チームで対応できるともっと安定した守りとなることを確認した。

☆予選リーグ第3試合☆

とちぎ帯広FC 4-0 多治見FCエルフェルソA (岐阜県) 会場：駒越小学校G

午前の途中から晴れてきたこともあり、グラウンドが乾いてきて、徐々に良い状態となってきた。試合は立ち上がり早々右サイドから攻め込む。

2分、左サイドで相手ボールを奪った3から右サイドへパスが渡り、19のセンタリングを8がシュート、GKがはじいたが8が詰めてヘディングでゴールへ、先制点を奪う。

その後も中央から両サイドを使った攻撃を繰り返し、優位に試合を進めるがなかなか得点できない。守備は2を中心に安定して守ることができ、両サイドバックの3、12も積極的に攻撃に絡んでいた。

19分、GKからのキックを左サイドの3がカットし、中央の9へパス、そのままドリブルで相手をおかわしシュート。2点目を奪う。

ハーフタイムでは『前半は上手く両サイドから攻めることができたが、シュート精度が低かった。』という課題を確認し、後半に向かった。

後半も立ち上がりから両サイドを使って攻め、4分には後ろから繋いだボールを中央の11が左サイドへスループアスを出し、それを4がセンタリング、18がシュート。GKにはじかれたが18がそのまま詰めてシュート。3点目。

7分にも中央から右サイドへの展開そして、18のセンタリングを4が落とし、16から11への横パスで揺さぶり、シュート。4点目を奪い、その後も優位に試合を進め、試合狩猟となった。

守備面では、1対1の局面で粘り強く守ることができたり、ファーストディフェンダーがあたって、セカンドディフェンダーで奪うということもできるようになってきて、ゴールを奪われそうなシーンはほとんど見られなかった。

やはり課題はハイプレッシャーの中での一つ一つのプレーの精度であることが確認できた。これは十勝に帰ってから意識して取り組まなければならないと痛感させられた。

とはいっても、予選リーグを3戦全勝で勝ち上がり、明日は1位トーナメント。一つ目を勝てれば

憧れの日本平スタジアムで試合ができるので、勝利に向けて自然とテンションが上がって初日を終えた。

4月5日(日)

☆1位トーナメント☆

とかち帯広FC 1-0 プリメーラ御殿場フットボールクラブ(静岡県)

会場: 船越小学校G

この試合に勝てば日本平で試合ができるということで、勝利に向けて自然とテンションが上がるが、小雨が降りグラウンドコンディションは悪く、ぬかるんでいる状態…。

試合は立ち上がり、センターバック2やトップ下9、右サイドハーフ15、左フォワード10を中心に全体的に上手く関わりボールを繋ぎながらシュートまでいくシーンを何度も見られたがゴールには結びつかない。

12分、相手GKのキックを9がカットし、10へ繋ぎシュートするが、はじかれCKとなる。そのCKから15が合わせ、シュート。待望の先制点を入れる。

その後も一進一退が続くが、シュートチャンスに決められず、前半が終了する。

ハーフタイムでは『良い試合ができています』、『慌てないこと』、『最初5分間は大きい展開』、『縦のスピードは負けていない』などの確認をした。

後半立ち上がり、ボランチ5、トップ下9、右サイド15と、10、11の両トップがからみ攻めるシーンが数回立て続けたが、決まらない。

7分、右サイド12からボランチ7、左サイド8と繋ぎ、センターバックの2に落とし、スループスから11がシュートするが、GKの正面。

11分頃から、相手の攻撃機会が増え、攻められる時間が続いたがGK1を中心に12、2、3らが体を寄せて守り、跳ね返す。

17分にはGKのフィードから10が縦に抜け、シュートするがGKに阻まれる。

19分、左サイドから攻められセンタリング、シュートとなったが右に外れ、試合終了。

憧れの日本平スタジアムで試合ができることが決定。今回の遠征の一つの目標を達成し、一安心するも続けてすぐに準決勝となる。

☆1位トーナメント☆準決勝

とかち帯広FC 0-6 原FC(神奈川県) 会場: 船越小学校G

10分程度の休みの後、準決勝となる。天候及びピッチ状態は相変わらずで、厳しい状況であった。試合は立ち上がりから攻められ、対応が遅れたり、奪ってもボールを簡単に失ったりして、続けざまに失点を繰り返す、前半8分までに4点を奪われる。

そして、失点を恐れるあまり、ラインを下げてしまいがちとなり、さらに攻められる。

14分にはコーナーキックを頭で合わせられ5点目を奪われる。

そんな大量失点の状況でも、集中力を切らさずに相手のDF裏へのスループスに対してGK20が判断良く飛び出し、相手攻撃を阻止したり、両サイド16、4が体を張ってセンタリングを阻止したりと、粘り強い守備も見られた。また、攻撃もトップ下11、両フォワード18、19を中心に反撃し、シュートするが相手GKに阻まれ、前半を終える。

ハーフタイムには『ディフェンスラインを上げる。』、『プレッシャーを厳しくする。』、『点を奪いにいく。』ことを確認し、後半に向かう。

後半は立ち上がり、いきなり中央から突破され、6点目を奪われるが、その後は一進一退を繰り返した。攻撃はトップ下6、両フォワード11、18、サイドハーフ19らを中心にパスを繋ぎ相手ゴールへ向かうが、パス精度低くかったり、判断が悪かったりして相手に奪われたり、シュートを打ってもGKに正面で獲られたりする場面が続いた。守備はサイドバック4などが体を寄せてボールを奪う場面やインターセプトも見られたが、展開として押される場面が多く、後手に回っていた。

そして、そのまま試合終了となり、3位決定戦へ回るようになった。しかし、会場は日本平スタジアムである。堂々と十勝らしいサッカーをしてこの貴重な体験を生かせるように、そして次に繋がるように終えたい。

☆1位トーナメント☆3位決定戦

とかち帯広FC 2-2 スケットフットボールクラブ (奈良県)

(PK4-3)

会場： 日本平IAIスタジアム

Jリーグの試合をする色々なスタジアムの中で、何度もベストピッチ賞に輝いている日本平IAIスタジアム。その素晴らしいピッチで試合をできるU-12の選手は全国で何人いるのでしょうか？その数少ない機会を手に入れた十勝の選手達。試合前に前後半を総入れ替えし、全員で戦うことを確認し3位決定戦に臨んだ。

試合は立ち上がり1分、キックオフを後ろに下げ、センターバック2から右サイド15へと繋ぎ、DF裏へのスルーパスが左フォワード10へ通り、シュート。いきなり待望の先制点を奪う。

その直後右サイドから攻められたが2がナイスカバーでピンチをしのいだ。その後は左右、真ん中それぞれがよく絡みながら攻めたが、なかなか追加点を奪えない。

13分、左サイド3が上手くボールを奪うと、トップ下9、左フォワード10へと繋ぎシュート。GKに弾かれるが、右フォワード19がしっかり詰めシュート。2点目を奪う。

15分には左サイドから中央へセンタリングを上げられ、シュートされるが左へ逸れる。

18分、再び左サイドからセンタリングを上げられるが、クリア。しかしそれがミスキックとなり相手に拾われシュート、失点する。2-1となる。

そして前半終了。ハーフタイムでは『失点の場面では人がたくさんいたのだから慌てなければ大丈夫だった』ということを確認し、後半のメンバーに託す。

後半立ち上がりは攻められたがボランチ17の相手の攻撃を遅らせるナイスディフェンスや相手のシュートミスなどで失点せずに乗り切る。

4分には相手GKのキックをフォワード18がカット、トップ下11に繋ぎシュート。しかしGK正面。続けてGKからのパスを左サイドからセンタリングしシュートまでいくがポストに直撃する。

その後相手の攻撃が続くが、2を中心に体を寄せたディフェンスで守ったり、相手のシュートミス、GK20のナイスセーブなどに助けられ、時間が経過していった。攻撃も左サイド8や左トップ10を中心に反撃するがゴールが遠い。

17分、相手の攻撃。左サイドからセンタリングを上げられるがクリアで凌ぐ。しかし、そのCKを中央で合わせられ失点。2-2となる。

残り時間、左サイドから反撃するがタイムアップ。

PK戦にもつれ込むが、4-3で勝ち、32チーム中見事3位となる。

おわりに

今回の遠征にあたって、立てた一つ目の目標「大きな刺激を受けること」は十分達成することができた。予選から決勝トーナメントまで、どのチームも通年（冬季も）外でサッカーをしているので、ハードワークもできるし、質の高いサッカーをしていた。特に激戦区を戦っている神奈川、埼玉、静岡をはじめとするチームの選手は逞しく、常に相手との駆け引きをしながらのサッカーをしていた。それは十勝の選手にとっては大きな刺激となった。

二つ目の目標「成果を試し、課題を確認すること」もできた。

成果としては、チームとしてどのように攻撃・守備をするかという点が意識できたときには、全国の強豪にも引けをとらない、素晴らしいサッカーを展開することができた。個の能力ももちろん大切だが、チームとして狙いをもった守備や攻撃をすることが大切であると再認識することができた。

課題としては、ハイプレッシャーの中でのプレーである。ボールのない時に「良い準備」（立ち位置、コミュニケーション、観ておくなど）をしておかないと、時間やスペースを与えてくれない守備の前では、何もすることができなかつた。今後はプレーのスタンダード（基準）をまずはハイプレッシャーに置いて、さらにトレーニングを積んでいきたい。

今回の遠征にあたって、静岡の船越の鈴木さん及びサッカー少年団の父母の皆さんをはじめ、静岡県清水のサッカー協会の方々、さくらカップの対戦チーム、最終日に交流していただいた神奈川のエクセレントフィートFCさん、ダイナモ川越さん、マッチメイクをしてくださった1FC川越水上公園さんには、選手にとってたくさんの財産になるような経験を積ませていただき、心から感謝したい。

また、年度初めの大事な時期にもかかわらず、選手を快く派遣してくださった十勝の各チームの皆さんに感謝すると共に、昨年末のチャンピオンズカップの快挙のときと同様、今回の成果も課題も十勝のサッカーに携わる全ての「チーム十勝」の方々に共有していくことを願って、この報告書の結びとしたい。